

カテゴリー	地域区分	意見整理例(案)(H18. 2. 15)	意見整理例(案)に含めている意見・意味の例	関連意見の 通し番号	意見整理(例)に関連するカテゴリー					
			注)青字は<H18.1.23更新>の意見整理例(案)に対して追加した箇所である。	注)番号は内容を確認するために便宜上 入れたものである。 また、青字は<H18.1.23更新>の全文案 に対して、今回追加された委員会意見の 通し番号である。	特徴・ 歴史	空間 利用	環境	利水	治水	教育・ 住民活動
特徴・歴史	大和川全川	歴史的な特徴が感じられる川づくりのあり方		(1)~(6),(情①),(情⑤)		○	○	○	○	○
		箱物でなく現地で体験できるサイトミュージアム構想の提案		(13)~(15),(情③)		○	○	-	-	-
		大和川流域における産業・資産の認識		(12)		-	-	○	○	-
	大阪府域	付け替え300周年を契機とした大和川への認識の高まり		(10),(情④)		-	-	-	-	○
空間利用	大和川全川	それぞれの場所の表情を活かした河川景観のあり方(空間のあり方も含む)	①河川利用と自然環境との折り合い等の観点から、都市空間における川のあり方を考える。 ②河口部のスケール、合流部分、狭窄部分、奈良地域の景観など、それぞれ地域にあった評価の指標を見つける。 ③景観としてのヨシの位置付け。	(9),(16),(17),(情⑧), 新⑤,第9回	○		○	○	○	○
		河川を舞台とした地域の行事との関わり方		(18)~(21)	○		○	-	○	○
		川に親しむ観点から考えた植生のあり方	①「川に親しむ」(ツクシやタンポポ摘みも含む)という観点では河川本来の植生を残すことが良いのではないか。 ②治水、管理上の考えから芝生が張られている。 ③河川内に残っている樹木には釣り人のための木陰や癒しの部分もあるので、その樹木のあり方を考える。 ④管理責任も念頭に入れた地域住民の手による花草の育植(花壇等の設置)。	(22)~(26),(32),(新①), 第9回	-		○	-	○	○
環境	大和川全川	河川本来の環境を目指した川づくりの考え方	①陸域のセイタカヨシ群落の保全。 ②刈り取りと野焼きによる生物の生息環境の変化。 ③正常流量のあり方。	(44)~(50), (77),(80),(81),(177), 第9回	-	○		-	○	○
		生物相の多様性が失われていない川		(30),(31),(33)~(37), (56),(情⑦)	○	○		-	-	-
		動植物に関する外来種の課題		(64),(198),第9回	-	○		-	-	○
		横断工作物による水質と生物の生息環境の変化		(38),(39),(65)~(67), (78),(79),第9回	-	-		○	○	-
		洪水等の攪乱による生物の生息環境の変化		(51),(52),(59), (61)~(62),(174),第9回	-	-		○	○	-
	水質のあり方	①支川を含めて、水質を適切に保つ。 ②糞便性大腸菌群の起源を明らかにする。 ③汚濁負荷発生源(点源、面源)の現状の把握。 ④下水道の接続率の課題。	(41),(42),(43),(53)~(55), (99)~(102),(199), (情⑦),(情⑧),第9回	-	○		-	○	○	
	流域	流域と河川との接続に関する課題	①水際の課題。 ②川と水田の往き来。	(40)~(43),(57),(58), 第9回	-	-		○	-	-
		生物系データベースの構築		(15),(75)	-	-		-	-	-
利水	大和川全川	将来の利水を考えるうえでの現状把握	①水利権の現状把握。 ②水量と水質の現状把握。 ③水の利用量の変化状況、及び濁水流量の変化要因の把握。	(82),(84),(86)~(98),(109), (178)~(184),(情⑨)	-	-	○		-	-
		井堰の効率化		(新②)	-	-	-		○	-
	流域	溜池の機能の維持		(103),(110),(111)	○	-	-		○	-

カテゴリー	地域区分	意見整理例(案)(H18. 2. 15)	意見整理例(案)に含めている意見・意味の例	関連意見の 通し番号	意見整理(例)に関連するカテゴリー					
			注)青字は<H18.1.23更新>の意見整理例(案)に対して追加した箇所である。	注)番号は内容を確認するために便宜上 入れたものである。 また、青字は<H18.1.23更新>の全文案 に対して、今回追加された委員会意見の 通し番号である。	特徴・ 歴史	空間 利用	環境	利水	治水	教育・ 住民活動
治水	大和川全川	大和川の特徴を考慮した治水計画	①集中豪雨を考慮した治水計画。 ②過去の浸水被害を鑑みた治水計画。 ③河道の横断計画のあり方。 ④流下能力の確保。 ⑤堤防の強化	(7),(112)~(114), (115)~(118), (149)~(151), (185)~(190),(200), (新④),(新⑥),(新⑦),(情⑬),第9回	-	○	○	○		○
		流域における流出特性の変化		(128),(129),(情②), (情⑩)	-	-	-	-		-
		土砂動態・河床変動の把握		(11),(63),(99),(109), (130)~(135), (136)~(138), (141)~(143), (145),(146),(情⑩)	○	-	○	-		-
		リスクマネジメントのあり方	①ソフト対策とハード対策の組み合わせが大事である。 ②緊急河川敷道路の整備。	(162),(163), (193)~(196),第9回	-	○	○	○		○
	流域	森林の状態の把握		(147),(148),(157)	-	-	-	-		-
		歴史的な土地利用形態が川の安全度に関わっているという認識が必要		(8),(104),(105)	○	-	-	○		-
	大阪府域	まちづくりとスーパー堤防の事業の推進		(164)~(167), (169)~(171)	-	-	-	-		-
	亀の瀬周辺	奈良盆地の諸河川が集中して流入する直下に亀の瀬地すべりがあることが治水上の一番のウィークポイント	①亀の瀬地すべりによるダムアップの上流への影響。	(3),(107), (158)~(161), (191)~(193),(情⑩)	-	-	-	-		-
	奈良県域	総合治水対策の見直し		(103),(110),(111),(152), (153),(156),(168), (情②),(情⑩)	-	-	-	○		-
	教育・住民活動	大和川全川	泳げて遊べる川を目指す		(29),(172),(173),(175), (176),(197),第9回	○	○	○	○	○
本来川がもつ川の機能を学べる場			①「大和川学習館」、「大和川環境館」、「大和川流域館」的なもの。	(174),情④,第9回	○	○	○	○	○	
持続性を視野に入れた学校教育や社会教育との連携のあり方			①大和川を学習する教材。 ②地域と結びついた学校教育を重視した空間利用、環境問題。 ③住民参加型の川づくり。 ④「刈り取り」など住民の輪を広げるような広域的な取り組み。 ⑤行政・地域住民活動・学識者等との連携したネットワーク。 ⑥NPO等のネットワークを持続するための支援のあり方。	(71)~(74),(76),(177), (新③),(情④),(情⑥), (201),第9回	○	○	○	○	○	
人々の認識の変化			①大和川クリーンキャンペーン。 ②「子供が変われば親が変わり、親が変われば地域が変わる」。	(情⑥),(情⑭)	○	○	○	○	○	